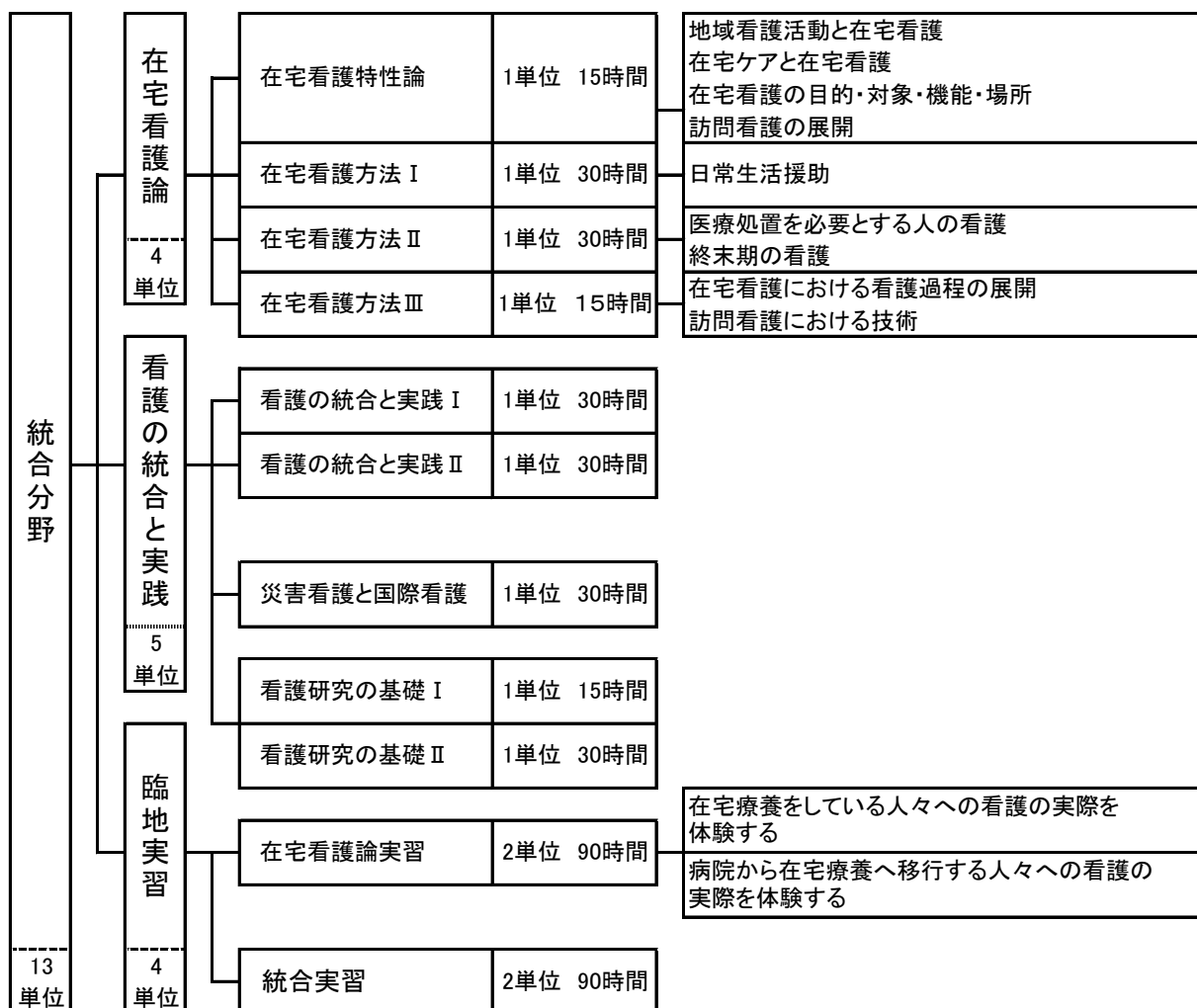


(5) 統合分野

【ねらいと構成】

- ・在宅看護論では地域で生活しながら療養している人々とその家族を理解し、対象が望む生活の質を維持・向上させることを目的とした看護の基礎を学ぶ。
- ・在宅看護特性論では在宅看護が必要とされる背景を考え、看護の目的・対象・機能を理解するとともに在宅ケアの概要と他職種と協働する中での看護の役割を学ぶ。
- ・在宅看護方法では在宅看護の中心となる訪問看護について学ぶ。
在宅療養を支える条件を理解したうえで、日常生活援助や医療処置を必要としている対象の捉え方を理解し、その基礎的な看護方法を学ぶ。



科目群：統合分野

3年度	授業科目	在宅看護特性論	担当教員	友原 たき子 村松 奈緒美	単位(時間数)	1(15)
第1学年					担当時間数	15
【友原たき子】						
授業科目に関連した実務経験の内容		看護師臨床経験28年				
実務経験を活かした実践的な授業内容		病院勤務(管理者)の経験に基づいて、地域包括ケアシステムや介護保険について制度や必要性を、具体的な事例を講義・グループワークに取り入れている。				
学習目的・目標	<p>目的：社会背景から在宅看護を必要とする対象の特性を理解し、在宅看護の目的と法的基盤を学ぶ。</p> <p>目標：1. 社会情勢の変化を理解したうえで、在宅看護の必要性を考える。 2. 在宅看護の目的・対象・機能を理解する。 3. 在宅看護の法的基盤とシステムを理解する。</p>					
回数	月日	学習内容	方法	場所	課題	
1	/	1. 在宅看護が必要とされる社会背景	講義	教室		
2	/	・在宅看護に必要な指標	講義	教室	「在宅看護に必要な指標」を調べ、在宅看護の必要性を考える	
3	/	2. 在宅看護とは ・看護の対象者、目的、場所、方法 ・看護の場である家庭や地域とは	講義 GW	教室	自分の24時間の過ごし方と、生活の中で大事にしている事を考える	
4	/	3. 訪問看護制度の確立	講義	教室		
5	/	4. 地域包括ケアシステム、介護保険	講義	教室		
6	/	5. 生活上の課題から、介護保険について考える	GW	教室	事例を読み込み、生活上の課題を考える	
7	/	6. 訪問看護制度	講義	教室		
8	/	試験		教室		
評価方法	45分の試験と課題で評価する。 配点は記述試験90点、課題10点とする。					
教科書	南江堂 在宅看護論 インターメディカ 『写真でわかる訪問看護』 厚生統計協会 『国民衛生の動向』					
参考書						
履修上の留意点	自分の家族や住んでいる地域と自分との関係を意識して生活すること。 5.6回目の講義は友原講師が行います。					

※実務経験は令和3年4月1日現在

科目群: 統合分野

4年度 第2学年	授業 科目	在宅看護方法 I	担当 教員	村松 奈緒美	単位(時間数)	1(30)
					担当時間数	30
学 習 目 的 ・ 目 標	<p>目的: 在宅看護を必要とする対象の特性と援助方法を理解し、訪問看護における看護職の役割と機能を学ぶ。</p> <p>目標: 1. 療養者や家族の気持ちを考える。 2. 家族の健康管理の必要性を理解する。 3. 日常生活の援助方法を理解する。 4. 訪問看護における看護職の役割を理解する</p>					
回数	月日	学習内容	方法	場所	課題	
1	/	1. 病棟内看護と訪問看護の相違	講義 GW	教室		
2	/	2. 在宅で暮らす療養者や、家族の生活や思いについて考える (療養者と妻の話)	講義	教室	ALSとは レポート	
3	/	3. 在宅療養の成立要件	講義	教室		
4	/	4. 在宅における倫理的課題	講義	教室		
5	/	5. 要介護高齢者への在宅看護	講義	教室		
6	/	6. 家族看護	講義	教室		
7	/	7. 介護者の生活を考える (事例より)	講義	教室		
8	/	介護者の生活や思いについて考える (介護者の方の話)	講義 GW	教室	レポート	
9	/	8. 在宅における感染予防、マナー	講義	教室	事例からどのように 在宅訪問したら よいか考える	
10	/	9. 訪問看護における清潔援助	講義	教室		
11	/	在宅における清潔援助の方法を考える	校内実習	実習室		
12 13	/	発表	校内実習	実習室	レポート	
14	/	10. 訪問看護における看護職の役割	講義	教室		
15	/	試験、授業のまとめ		教室		
評価方法	<p>45分の試験と課題で評価する。 配点は記述試験85点、課題15点とする。</p>					
教科書	<p>南江堂 在宅看護論 インターメディカ 『写真でわかる訪問看護』 メディックメディア 病気がみえるvol.7脳・神経</p>					
参考書						
履修上の 留意点	<p>2、8回目の講義は外部講師と共に行います。 各看護学で学んだことをベースに在宅での看護を学習していきます。</p>					

科目群:統合分野

4年度 第2学年	授業 科目	在宅看護方法Ⅱ	担当 教員	及川 高志 村松 奈緒美	単位(時間数)	1(30)
					担当時間数	30
【及川高志】 授業科目に関連した 実務経験の内容		作業療法士臨床経験13年(訪問看護ステーション勤務経験8年)				
実務経験を活かした 実践的な授業内容		訪問看護ステーション勤務の経験に基づいて、在宅で生活する訪問看護を必要とする小児の多職種連携や制度確立の必要性について、具体的な事例を講義に取り入れている。				
学 習 目 的 ・ 目 標	<p>目的: 医療機関と居宅を結ぶ看護の継続性とそれぞれの場での看護師の役割と機能を学ぶ。</p> <p>目標: 1. 医療機関と居宅を結ぶ看護の継続性を理解する。 2. 在宅看護と他職種の連携について理解する。 3. 在宅での医療処置に伴う看護の基礎が理解できる。 4. 在宅における終末期の看護およびグリーフケアについて理解できる。</p>					
回数	月日	学習内容	方法	場所	課題	
1	/	1. 在宅難病療養者を支える制度と社会資源	講義	教室	ALSについての学習	
2	/	2. 福祉用具	講義	教室		
3	/	3. 障がいとともに豊かに生きる(障がいを持った方の話)	講義	教室	レポート	
4	/	4. 退院支援と継続看護	講義	教室		
5	/	5. 在宅看護におけるチームケア	講義	教室		
6	/	6. 在宅看護と他職種の連携 医師、ケアマネージャー	講義	教室		
7	/	リハビリテーション専門職、介護職等	講義	教室		
8	/	7. 保健師活動との連携 8. 災害対策と災害時の連携	講義	教室		
9	/	9. 在宅看護を必要とする小児 (訪問看護ステーション理学療法士、訪問看護師講義)	講義	教室	レポート	
10	/	10. 栄養管理(胃瘻、中心静脈栄養)が必要な療養者の看護	講義	教室		
11	/	11. 褥瘡、排泄障害のある療養者の看護	講義	教室		
12	/	12. 呼吸管理(在宅酸素、人工呼吸器装着中)が必要な療養者の看護	講義	教室		
13	/	13. 在宅医療の生活と障害福祉サービス (療養者、訪問看護師、障害者デイサービスセンター看護師講義)	講義	教室	レポート	
14	/	14. ターミナル期の看護、グリーフケア	講義	教室		
15	/	試験、授業のまとめ		教室		
評価方法	45分の試験と課題で評価する。 配点は記述試験80点、課題点20点とする。					
教科書	南江堂 在宅看護論 インターメディカ 『写真でわかる訪問看護』 メディックメディア 病気がみえるvol.7脳・神経					
参考書						
履修上の留意点	3、13回目の講義は外部講師と共に行います。 9回目の講義は及川講師が行います。					

※実務経験は令和3年4月1日現在

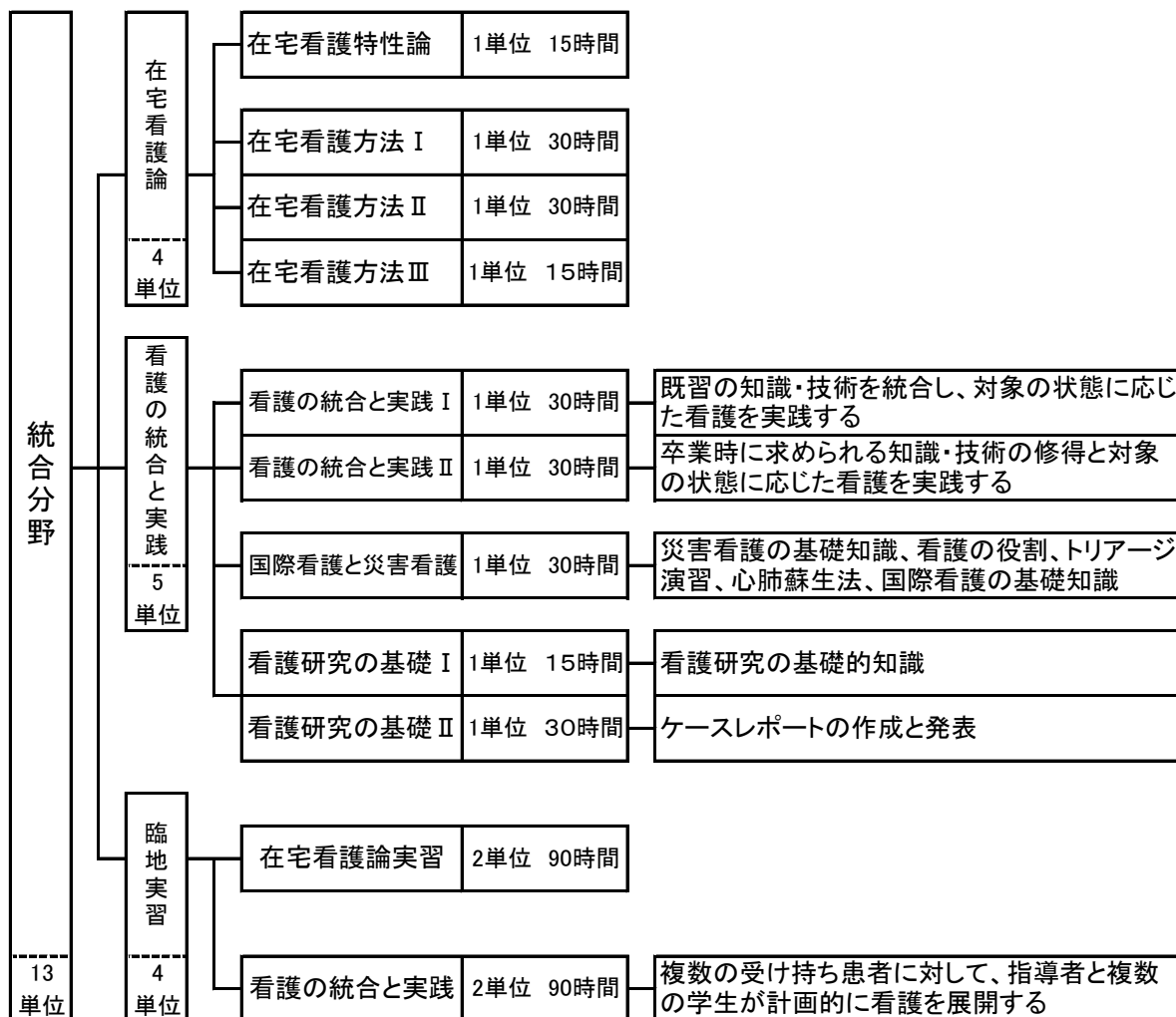
科目群: 統合分野

4年度 第2学年	授業 科目	在宅看護方法Ⅲ	担当 教員	村松 奈緒美	単位(時間数)	1(15)
					担当時間数	15+研修1
学 習 目 的 ・ 目 標	<p>目的: 在宅看護における看護の展開方法を学ぶ。</p> <p>目標: 1. 在宅における看護過程の展開を理解する。</p>					
回数	月日	学習内容	方法	場所	課題	
1	/	1. 訪問看護における看護過程の特徴 2. Aさん(脳梗塞で左半身不全麻痺)の事例提示 ・介護保険を利用した訪問看護の流れを理解する ・訪問看護で使用する書類を理解する	講義	教室	授業進度にあわせ、課題を提出する。	
2	/	3. Aさんの初回訪問前の情報を整理する 4. Aさんの初回訪問に向けてのアセスメントを行う	講義	教室		
3	/	5. 初回訪問で情報収集する内容を明らかにする ・Aさんの健康障害と治療を明らかにする	講義	教室		
4	/	6. 訪問看護における看護計画を理解する ・Aさんの初回訪問で得た情報を整理する	講義	教室		
5	/	・Aさんの初回訪問で得た情報をアセスメントする ・アセスメントから看護上の問題を導く	講義 GW	教室		
6	/	7. 訪問看護における看護計画を理解する	講義 GW	教室		
7	/	8. Aさんの実践可能な看護計画を立案する	GW	教室		グループワークの結果を提出する
8	/	発表	演習	在宅看護 実習室Ⅱ		今までの課題を整理し提出する
評価方法	課題とGW資料で評価する。					
教科書	南江堂 在宅看護論 インターメディカ 『写真でわかる訪問看護』 メディックメディア 病気がみえるvol.7脳・神経					
参考書	「脳梗塞」の事例で行ないます。各自で参考資料となるものを持参して授業に臨んでください。					
履修上の 留意点	各看護学で学んだことをベースに在宅での看護を学習していきます。					

(5) 統合分野

【ねらいと構成】

統合分野は、看護基礎教育で修得する看護技術と臨床現場で求めるものとのギャップを埋めるための手段とする。学生が基礎的知識・技術を身につけ、臨床の現場で起こりうる場面に対応できるようにする。そこでは、今までに学んだ理論を使い科学的根拠に基づいた看護判断ができ、チーム医療や他職種と協働し自己のもてる力を最大限に活用する。また、臨床に近い形で学習することで、職業人としての自覚や責任を育む。



科目群:統合分野

4年度	授業科目	看護の統合と実践 I	担当 教員	笹尾 みゆき	単位(時間数)	1(30)
第2学年					担当時間数	30
【笹尾 みゆき】 授業科目に関連した 実務経験の内容		看護師臨床経験 16年				
実務経験を活かした 実践的な授業内容		病院での臨床経験をもとに培った看護実践について病態と繋げて講義する。				
学習・目的・目標	<p>目的: グループで、既習の知識・技術を統合し、対象に応じた看護方法を考え実践する。</p> <p>目標:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 個々の持てる力を発揮してチーム力を高め、学びあう。 2. 患者の全体像をチームで共有して必要な観察と日常生活援助を考えることができる。 3. 患者に必要な看護を実践し、リフレクションして次回の看護に活かすことができる。 					
回数		学習内容	方法	場所	課題	
1	/	1. 基礎看護学実習Ⅱのねらい、本講義の目的・目標、今後の予定 ・看護師に求められる能力とは何かを考える ・「臨床判断能力」について	講義 GW	教室		
2	/	2. Tさんの状態(COPD)をイメージする。 ・肺の形態機能からTさんの病態の確認をする。 ・Tさんの事例を使って(3-2)を書く。	校内実習 GW	実習室	授業前に伝える	
3 ・ 4	/	3. Tさんの状態(COPD)をシミュレーションし、必要なケアを考える。 ・ケアを実践し、リフレクションする。 ・リフレクション内容を発表し、もう一度実践してみる。	校内実習 GW	実習室	授業前に伝える	
5	/	4. Kさんの状態(大腿骨頸部骨折)をイメージする。 ・大腿骨の形態機能からKさんの病態を考える。 ・Kさんの事例を使って(3-2)を書く。	校内実習 GW	実習室	授業前に伝える	
6 ・ 7	/	5. Kさんの状態(大腿骨頸部骨折)をシミュレーションし、必要なケアを考える。 ・ケアを実践し、リフレクションする。 ・リフレクション内容を発表し、もう一度実践してみる。	校内実習	実習室	授業前に伝える	
7 ・ 8	/	6. シミュレーションする事例を使って、看護を実践する。 ・看護の実践をリフレクションする。 ・リフレクション内容を共有し、次の実践に活かす。	校内実習	実習室	授業前に伝える	
9 ・ 10	/	7. シミュレーションする事例を使って、看護を実践する。 ・看護の実践をリフレクションする。 ・リフレクション内容を共有し、次の実践に活かす。	校内実習	実習室	授業前に伝える	
11 ・ 12	/	8. シミュレーションする事例を使って、看護を実践する。 ・看護の実践をリフレクションする。 ・リフレクション内容を共有し、次の実践に活かす。	校内実習	実習室	授業前に伝える	
13 ・ 14	/	9. シミュレーションする事例を使って、看護を実践する。 ・看護の実践をリフレクションする。 ・リフレクション内容を共有し、次の実践に活かす。	校内実習	実習室	授業前に伝える	
15	/	10. 授業の振り返り 基礎看護学実習Ⅱにむけての自己目標設定をする。	GW	教室		
評価方法	事前課題、グループ課題、発表、レポート、授業時間内に行う小テストで評価する。					
教科書	医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 呼吸器 成人看護学② メディックメディア 病気がみえる④ 呼吸器 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 循環器 成人看護学③ 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 消化器 成人看護学⑤ 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③					
参考書	メディックメディア 病気がみえるシリーズ各論					
履修上の留意点	主体的に事前学習して授業に参加。グループワークでお互い助け合い高めあう努力をすること。課題提出の期日は守ること。					

※実務経験は令和3年4月1日現在

科目群:統合分野

5年度 第3学年	授業 科目	看護の統合と実践Ⅱ	担当 教員	中村 睦美	単位(時間数)	1(30)
					担当時間数	30
学習目的・目標	<p>目的: 既習の知識・技術・態度を統合し、看護が実践できる基礎的能力を養う。 目標: 1. ヒューマンケアの基本的能力を理解することができる。 2. 倫理面やリスク面を配慮した看護を理解し、その根拠を考えることができる。 3. 看護の優先度や医療安全の視点を考慮し、看護計画を立案し実践することができる。 4. 複数患者の事例を通して、多重課題における看護の優先度を考えることができる。 5. チームの学びを振り返り、実習に向けてチームの目標を表現することができる。</p>					
回数	月日	学習内容	方法	場所	課題	
1	/	1. 看護実践の土台としての知識学習 ・チーム医療 ・看護のマネジメント	講義 演習	教室		
2	/	2. 看護実践の土台としての知識学習 ・ヒューマンケアの基本的な能力	講義 演習	教室		
3	/	3. 看護実践の土台としての知識学習 ・夜間看護について ・学生看護チームの理念を考える ・事例(骨折・肺気腫)をイメージする	講義 演習	教室		
4	/	4. チーム演習 ・骨折事例の起こりうる問題や看護の優先度を考慮し24時間の行動計画を立案	講義 演習	教室		
5	/	5. チーム演習 ・肺炎・肺気腫事例の起こりうる問題や看護の優先度を考慮し24時間の行動計画を立案	講義 演習	教室		
6	/	6. チーム演習 ・2事例をそれぞれ2人で受け持ち、2人で2事例の1日の行動計画立案 ・他のメンバーとGWLし、最終的な1日の行動計画を立案	講義 演習	教室		
7	/	7. チーム演習 ・行動計画に基づき実践(事前検討と物品の準備)	校内実習	実習室		
8	/	8. チーム演習 ・行動計画に基づき実践(実施)	校内実習	実習室		
9	/	9. チーム演習 ・行動計画に基づき実践(実施)	校内実習	実習室		
10	/	10. 演習(教員参加) ・演習の実際(多重課題)	校内実習	実習室		
11	/	11. チームデブリーフィング(教員参加) ・多重課題演習を振り返り、チームでの対応を考える	校内実習	実習室		
12	/	12. クラスデブリーフィング ・チームで考えた対応を発表 ・クラス討議	講義 演習	教室		
13	/	13. チームデブリーフィング ・クラス討議後、再度チームとしての対応を考える	講義 演習	教室		
14	/	14. 発表会(教員参加) ・多重課題演習の発表会	発表	教室		
15	/	15. 授業のまとめ 「授業からの学びと実習で取り組みたい目標」をチームでレポートにまとめ提出する	講義 演習	教室		
評価方法	授業時間内に行う小テスト、チーム課題、発表、レポートで評価する。					
教科書	医学書院 系統看護学講座 統合 看護管理 看護の統合と実践① メディカルフレンド社 看護管理 看護研究 看護制度 メディカルフレンド社 看護実践マネジメント 医療安全					

科目群: 統合分野

4年度	授業科目	災害看護と国際看護 (災害看護)	担当 教員	相沢 努	単位(時間数)	1(30)
第2学年					担当時間数	22
授業科目に関連した 実務経験の内容		看護師臨床経験19年、救急看護認定看護師経験8年				
実務経験を活かした 実践的な授業内容		臨床の看護師経験と救急看護認定看護師の勤務経験を活かした講義により、災害時・救急時の看護を講義・演習に取り入れている。				
学習目的・目標	目的: 施設内看護から視野を広げ、国際看護や災害時・救急時の看護を学ぶ。 目標: 1. 災害に関する基礎知識を学ぶ。 2. 災害時の看護の役割を理解する。 3. 心肺停止患者の心肺蘇生法を実践する。 4. 心肺停止患者にAEDを使用できる。					
回数	月日	学習内容	方法	場所	課題	
1	/	1. 救急時の看護 ・心肺停止状態への対応/一次救命処置	講義	教室		
2・3	/	2. 救急時の看護 ・心肺蘇生法の実践(BLSの実践 AEDの操作方法) 3. "	校内実習	実習室		
4	/	4. 災害看護の基礎知識、災害に関する制度	講義	教室		
5	/	5. 災害が人々に与える影響、災害時サイクルに応じた看護の役割	講義	教室		
6	/	6. 災害時の看護の役割 ・トリアージの基本と方法・トリアージ机上シュミレーション	講義	教室		
7・8	/	7. 災害時の看護の役割 ・トリアージ演習、応急処置 8. "	校内実習	未定		
9・10	/	9. 被災病院における発災直後の看護活動 10. 災害時のこころのケア 災害看護活動の課題	講義	教室		
11	/	試験・授業のまとめ		教室		
評価方法	試験と課題で評価します。 試験は45分で実施し、配点は70点です。					
教科書	医学書院 系統看護学講座 統合分野 災害看護学・国際看護学					
参考書						
履修上の留意点						

※実務経験は令和3年4月1日現在

科目群: 統合分野

4年度 第2学年	授業 科目	災害看護と国際看護 (国際看護)	担当 教員	西川 まり子 若園 尚美	単位(時間数)	1(30)
					担当時間数	8
【西川 まり子】 授業科目に関連した 実務経験の内容		看護師臨床経験21年 国連ニューヨーク本部 UFFPA、UNICEF勤務経験				
実務経験を活かした 実践的な授業内容		臨床の看護師経験と国連の勤務経験を活かした講義により、国際看護の現状と看護師の役割を学ぶ。				
【若園 尚美】 授業科目に関連した 実務経験の内容		看護師臨床経験38年				
実務経験を活かした 実践的な授業内容		病院勤務(管理者)の経験を活かした講義により、国際看護における看護師の役割を学ぶ。				
学 習 目 的 ・ 目 標	目的: 施設内看護から視野を広げ、国際看護の現状、国際看護での看護師の役割を学ぶ。					
回数	月日	学習内容	方法	場所	担当教員	
1	/	世界の国際看護の現状	講義	教室	西川	
		グローバルヘルスの指標				
2	/	国際看護における看護師の役割	講義	教室	若園	
3	/	日本での国際看護の現状	講義	教室		
4	/	日本での外国人の現状	講義	教室		
評価方法	評価は、30点配点とする。(世界地図のテスト・小テスト)					
教科書	なし					
参考書	医学書院 系統看護学講座 災害看護学・国際看護学					
履修上の 留意点	以下の事前学習をして授業に参加する。 ①ユニセフ基礎リーフレットの世界地図を覚えて授業に参加する。 ②世界子供白書2019<要約版>を読んで、関心を持って授業に参加する。					

※実務経験は令和3年4月1日現在

科目群：統合分野

4年度	授業科目	看護研究の基礎Ⅰ	担当 教員	小笠原 順美	単位(時間数)	1(15)
第2学年					担当時間数	15
学習目的・目標	<p>目的：看護研究に必要な基礎的知識を学ぶ。</p> <p>目標：1. 看護研究の意義や目的を説明できる。 2. 研究における倫理的配慮の必要性について説明できる。 3. 看護研究の対象及び方法について理解できる。 4. 文献クリティークの方法を知る。 5. ケースレポートと事例研究(ケーススタディ)の意義や目的を理解できる。</p>					
回数	月日	学習内容	方法	場所	備考	
1	/	1. 看護研究の意義と目的	講義	教室		
2	/	2. 看護研究における倫理的配慮	講義	教室		
3	/	3. 研究デザイン ●量的研究と質的研究	講義	教室		
4・5	/	4. 文献クリティーク ●文献のクリティークポイント ●文献をクリティークしてみよう	講義 グループワーク	教室		
6・7	/	5. ケースレポートとケーススタディの違い ●ケースレポートを読んでみよう ●ケースレポートの構成を理解しよう	講義 グループワーク	教室		
8	/	試験		教室		
評価方法	課題(20点)と筆記試験(80点)で評価する。 試験時間は45分					
教科書	医学書院 系統看護学講座 別巻 看護研究 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅰ 看護学概論					
参考書	松木孚, 森田夏実: わかりやすいケーススタディの進め方. 照林社					
履修上の留意点	課題の提出は指定日、時間を厳守する。					

科目群：統合分野

5年度	授業科目	看護研究の基礎Ⅱ	担当教員	小笠原 順美	単位(時間数)	1(30)
第3学年					担当時間数	30
学習目的	<p>目的：受け持ち患者の看護を振り返り、ケースレポートとしてまとめる。</p> <p>目標：1. ケースレポート計画書を作成する。 2. ケースレポート計画書に基づき、レポートの構成を考える。 3. 文献を使って自己の看護の意味づけをする。 4. 自己の看護についてレポートと資料を作成する。</p>					
回数	月日	学習内容	方法	場所	備考	
1・2	4/	1. ケースレポート計画書 2. ケースレポートの構成	講義 GW	教室	【持参物】 ・基礎看護学実習Ⅱまたは領域実習1クール目の実習記録、メモ帳、領域の実習要領 【課題】ケースレポート計画書①(10点)	
3	4/	1. 先輩レポートを読む 2. ケースレポートにチャレンジする実習場所を決定(その理由を明らかにする)	講義 個人ワーク	図書室		
4・5	5/	1. グループ内で、ケースレポート計画書(基礎Ⅰ又は領域1クール目)を発表し、メンバーより、講評を受ける。(メンバーは、評価視点にそって講評する。) 2. 基礎看護学実習Ⅱ又は領域実習1クール目の看護場面でのケースレポート計画書を修正する。	グループワーク 個人ワーク	教室	ケースレポートをまとめる病棟を調査 【課題】 計画書①2回目(追加修正)提出(5点)	
6～9	7/	1. ケースレポート計画書をもとに、ケース・レポートを構成する。 1)仮のテーマを決める 2)研究動機と研究目的を明確化する(研究背景の文献を探す) 3)事例の全体像を整理する。 4)看護の実際を整理する。 5)考察に必要な根拠を明確化(根拠となる文献を整理する)	講義 個人ワーク	教室 図書室 視聴覚教室	【課題】 ・ケースレポート計画書②提出(6月29日) 【持参物】 6回目の授業開始時、ケースレポート計画書、実習記録、必要な資料を持参する。	
10～12	7/	2. レポートとして文章化する。 テーマ はじめに Ⅰ. 患者紹介 Ⅱ. 看護の実際 1. 看護問題 2. 看護目標 3. 看護の実際 Ⅲ. 考察 Ⅳ. 結論 おわりに 引用・文献	講義 個人ワーク	教室 図書室 視聴覚教室		
13	7/	5. グループ内でレポートの発表を行い、視点にそって評価(良い点・改善点)しあう。	講義 グループワーク	教室 図書室 視聴覚教室	【課題】 メンバーへの講評(5点)	

14 ～ 15	7/	6. 誤字・脱字、句読点、文章のねじれなどを指摘し合い、修正してレポートを完成する。 補助資料(指導リーフレット)をコピーして添付する。	講義 グループ ワーク	教室 図書室 視聴覚教室	14:30 ケースレポート(指導用リーフレット含)提出
評価方法	課題: ケースレポート計画書(20点)とケースレポート(80点)で総合評価する。 ※ケースレポートの内容が不十分の場合は、深化指導を受ける。				
教科書	医学書院 系統看護学講座 別巻 看護研究 松本孚, 森田夏実: わかりやすいケーススタディの進め方. 照林社				
参考書	メヂカルフレンド社 『看護学生のためのケース・スタディ 第4版』				
履修上の 留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・春期休暇中に分かりやすいケーススタディ PartIV P135～251の中から1事例を読む。 事例を読むときに、「わかりやすいケーススタディの進め方 Part IV P135～145レポートを書くためのポイント」を意識する。 ・春期休暇中に基礎看護学実習Ⅱ又は領域実習Ⅰクールの関わりで、振り返りたい場面をケースレポート計画書①に表現する。(4月の始業時提出する) ・第3回目の授業終了後、3年次4月～6月の実習のどこでケースレポートをまとめたいか決める。 ・第5回目の授業後、ケースレポート計画書①(追加修正版)を提出する。 ・4月～6月末までの実習中に、ケースレポート計画書②を作成し、実習担当教員から指導を受けることができる(1回)。 ・6月29日(火)8:30までにケースレポート計画書提出。6回目授業では必要な資料、文献を準備し持参する。 ・レポート・資料作成は、視聴覚教室の自分のパソコンを使用する(データの保存管理は各自で行う)。 ・課題の提出は、指定日・時間を厳守する。(事前連絡無の提出、時間遅れは、課題点は0点) 				